

大月市賑わいづくり社会実験 企画書(案)

事業の 名称	”大ツキ”軽トラック市事業
事業の 目的	1. 少子・高齢化に対応する新たな商店街機能（買い物機能、コミュニティ機能）を獲得し、地域経済（市内消費、雇用創出、税制確保）に貢献する。 2. 地域資源を発掘し、それを商店街に呼び込むことで、ビジネスチャンスを創出する。これをもって市内起業化と地域の個性化を促す。 3. 商店街個店の競争環境をつくることで、その経営改革を進めていく。
主 体	商店街、学生、行政、生産者、SOHO、一般（小俣 孝）
対 象	来街者（①近隣住民（50%）、②市内住民（30%）、③観光客（20%））
期 間	平成23年6月～11月
内 容	1. 甲州街道における大月駅前交差点から大月市役所前の約400m区間において、歩行者天国として、軽トラ約50台の模擬店による市場を開催する。 2. 開催時期は、平成23年9月の土曜日の午前と10月の土曜日の午後の2回行い集客及び出店の状況を調べる。 平成24年からは、5月～10月の毎月1回程度を実施する。 3. 運営主体は、大商協を中心として設立するプロジェクト組織が行なう。 ①地域資源の発掘、②道路環境の整備、③集客プロモーション、④販売支援、⑤共同事業（”大ツキ”イベント、保育コーナー、交流広場等運営）を手がける。 4. 出店者は、市内の農業・工芸品等生産者、飲食店、SOHO者等に加え、商店街個店も出店。また、本事業への協賛者及び短大生や小学生のチャレンジ出店も参画する。
作成する資料	
概算金額	
目 標	1. 軽トラ市の経済的目的を達成する…1回当たり軽トラ数50台、集客数2千人、売上200万円（1千円×2千人） 2. 地域資源を発掘し、持続可能な商店街ビジネスモデルを構築する…人的資源50件として開業意欲者10人、個性のある商材50件、顧客満足度150%アップ
評価項目	1. 経済的評価…①軽トラ市での集客人数、全体売上、客単価。②後日の商店街における客数、売上等の変化。（ともに市内と市外の顧客別数値） 2. イノベーション評価…①軽トラの出店者数（希望者も含む）、②地域顧客の満足度、③空店舗利用数（見込み）、④新商品開発の量と質 3. 影響度評価…①マスコミ露出件数、②連携する団体数、③視察者数、④個店の動機付け
そ の 他	1. 軽トラック市の事例として、「川南町・トロントロン軽トラ市（宮崎県）」、「雫石商店街（岩手県）」などがある。 2. 平成24年度以降は、5月～10月の1回程度の継続事業とする。3年目以降は、軽トラ市出店から空店舗活用の常設店となるように誘導する。 3. 交通止め許可（国土交通省、警察署）、出店者の確保が課題